

水俣病は叫ぶ

(4)

新潟水俣病の関係者たちが水俣市を訪れ、波紋を投げかけたところと前後して、全国的に公害関係のニュースが続々伝えられた。富山県下での鉛公害とみられるイタイイタイ病と有機水俣汚染警告、大牟田川の水銀汚染調査などである。しかしこの側面では、幸いにしてまだ有機水俣病の中汚染者は出ていない。何と云っても悲愴なのは水俣病とそれに続く新潟水俣病の「連続出火」だといえる。

連続出火

「政府が、熊本で水俣病の原因をはっきりさせ、水銀を使う化学工場に完全な浄化装置を設けるよう命じていたら、新潟水俣病の発生は防げたろう」——一月末水俣市を訪れた前記の新潟民主団体水俣対策会議の人々は、そう言って悔しがった。

たしかにそうだ。熊本と新潟は日本列島の南と北。地理的には一千五百キロ近い隔りがある。にもかかわらずこの二つの水俣病は、警備体制の手落ちを突いたからである。だとすればそれは、

新潟県の汚染によると、家畜の狂い死にが開始したのは三十八年八月である。だとすればそれは、

狂死も、水揚げ高の上昇につれてえ始めたことだ。県の汚染と通つて聞元の人々は「すでに三十四、三十五年からその兆候があった」と言ふ。亡したのは、それから間もない同年八月である。

水俣の袋湾でも、水俣病発生当時「海面に、おびただしくボウが浮いている」と漁民を驚かせたこと。水銀は工場公害だけではな

各地に広がる水銀禍

新潟熊大の警鐘も届かず

三十八年以降に新たな死に苦がなを鳴らしたところである。しかしその警鐘は、新潟まで届かなかった。遠く猪苗代湖に源を流す阿賀野川が明らかに「異常」を起していたら、病疫二十七人、うち死亡五人という新潟水俣病の犠牲は防げたであろう。

ことしの三月六日、厚生省と富山県は「高岡市内を流れ、伏木港から日本海に注ぐ富山県小矢部川に有機水銀で汚染されており、魚が有機水銀を防ぐための警戒を要する」と発表したが、イタイイタイ病の富山県は、水俣病でも警戒警報を出したのだ。

日本各地に、水銀禍が広がっているときを言える。久留米大学公衆衛生学教室の山口誠哉教授が「福岡県大牟田市の大牟田川で、工場廃液の中から有機水銀らしいものを検出したので、目下追跡調査中だ」と発表して関係者にシッ

病の体験が新潟で有効に生かされていたら、病疫二十七人、うち死亡五人という新潟水俣病の犠牲は防げたであろう。

ことしの三月六日、厚生省と富山県は「高岡市内を流れ、伏木港から日本海に注ぐ富山県小矢部川に有機水銀で汚染されており、魚が有機水銀を防ぐための警戒を要する」と発表したが、イタイイタイ病の富山県は、水俣病でも警戒警報を出したのだ。

日本各地に、水銀禍が広がっているときを言える。久留米大学公衆衛生学教室の山口誠哉教授が「福岡県大牟田市の大牟田川で、工場廃液の中から有機水銀らしいものを検出したので、目下追跡調査中だ」と発表して関係者にシッ

山梨衛生研究所の検査では、同川の下流の河口からメチル水銀のような物質が最大〇・一四五PPM、最低〇・〇一PPM検出された。また川のゴイ、フナなどからもメチル水銀のような物質が検出されている。

小矢部川の場合、河口から三、四キロの区間の汚染がひどい。この付近には塩化ビニールの製造過程で水銀を触媒として使う工場が三つあり、その廢液に疑いがかけられている。

水銀禍は工場公害だけではな

大牟田川は「川」とは名ばかり。実態は三井各社の工場廢液を有明海に流す「下水路」だ。数年前から、水銀が流されているというウワサはあった。刺激性の悪臭。製品によって七色に変わる下口の水。川岸には雑草すらはえていない。

水銀を流してはならない三井化学は、四十二年四月電解工場に水銀回収処理施設をつくった。大牟田市内企業室のことし三月末まで出ておらず、手放しの濃縮の汚染によると、大牟田川の水銀は、四十二年七月の〇・二五五PPMから四十二年五月には〇・〇一PPMに落ちた。水銀回収処理施設の効果が上がったのだ。しかし皮膚呼吸によつて落ガン作用を起す危険もあるといわれる芳香族アミンは、四十一年七月に八・八PPMだったのが同年十一月には五五・八PPMに上昇、その後もかなり高い汚染度が続いている。

水銀汚染が警告されている大牟田川

